

2 研究の実際

(1) 文献等による研究

ア 学習指導要領改訂の方向性

平成 28 年 12 月、中央教育審議会答申において、中学校美術科における成果と課題を受けて改訂の具体的な方向性について次のように示されました⁽¹⁾。

- ・感性や想像力等を豊かに働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるように、内容の改善を図る。
- ・生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習の充実を図る。

美術科の授業において、生徒は自分の感性や想像力等を働かせて、発想や構想の能力、創造的な技能を身に付けていきます。そのためには、形や色彩などの特徴を捉え、イメージなどを幅広く持つことが大切であり、思考・判断したことを基に表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら主体的に学習することが大切だと考えます。このことを踏まえ、感性や想像力を働かせ、造形的な視点を豊かに持ち、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることができるよう資質・能力を育成することが一層重視されることとなりました。

イ 鑑賞領域の改善

新学習指導要領では、「B鑑賞」の内容が、アの「美術作品など」に関する事項と、イの「美術の働きや美術文化」に関する事項に分けて示されることとなり、「A表現」との関連を図り、特に発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて「思考力、判断力、表現力等」を育成することが重視されるようになりました。

ウ 「造形的な見方・考え方」について

美術科の授業では、対象や事象を豊かな感性や想像力で捉えることが大切です。新中学校学習指導要領解説美術編には、造形的な見方・考え方について、以下のように示されています⁽²⁾。

造形的な見方・考え方とは、美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。

美術作品を鑑賞する際においても、感性や想像力を働かせ、造形的な視点を豊かに持って対象や事象を捉えることは、〔共通事項〕に示されている形や色彩、材料や光に着目して、その働きを捉えたり、作品全体の造形的な特徴からイメージを捉えたりする際の視点といえます。

エ 〔共通事項〕の考え方について

中学校美術科の授業では、〔共通事項〕を造形的な視点を豊かにするために必要な知識として位置付けられています。しかしながら、これらは教師が教え込むものではなく、生徒が実感を伴って理解していくことが大切であり、新たな学習過程を経験することを通して再構築されていくことが重要であると考えます。

新中学校学習指導要領では、〔共通事項〕が以下のように示されています⁽³⁾。

「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
- イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

〔共通事項〕の指導を通して造形的な視点を豊かに育てていくことが大切です。そのためには、鑑賞活動で感じたことを〔共通事項〕に示されている内容を活用させ、他者との対話を通して交流させることで、多様な造形的な視点があることに気付かせることが大切であると考えます。

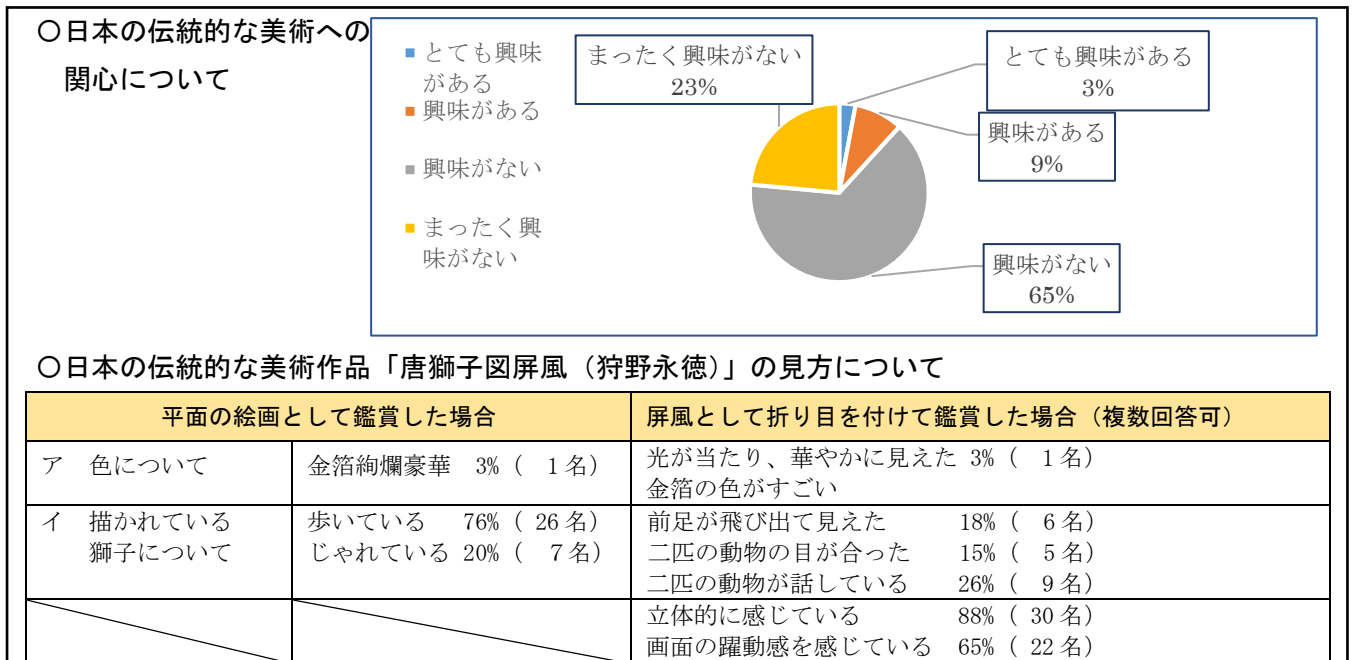
オ VTSの考え方

VTS（ビジュアル・シンキング・ストラテジーズ）とは、アメリカニューヨークの近代美術館（MoMA）がギャラリートークで示した考えを基にした考え方です。この考え方では、作品の解釈や知識を提供するような解説をせずに、『作品の中でどんな出来事が起きていますか』という問い掛けから鑑賞の時間が始まり、鑑賞者は次々に意見を述べながら作品の主題に迫っていきます。作品と鑑賞者とのコミュニケーションを通じた関係によって意味が付加されていきます。

「美術鑑賞経験の少ない小中学生に対しての指導法として、まずは、美術作品を見せ、その印象を物語として語らせます。次にその発言を肯定的に認めつつ、より普遍的な言葉に導いていくことが有効的だと考えられます。VTSの理論では、生徒が自分の考えを持つことが重要とされます。自分の考えを持たせるために、教師は3つの発問を行います。1つ目は『作品の中でどんな出来事が起きていますか』、2つ目は『なぜそう思いましたか』、そして3つ目は『新しい発見はありませんか』です。」⁽⁴⁾生徒が自分自身に自問自答しながら鑑賞活動を行うようにし、更に対話をする中で、お互いの考えを共有し、批評し合うことを通して、自らの考えを深めていくような学習を展開します。そうすれば、生徒は造形的な見方・考え方を働かせて、考えたことや感じたことを説明することができるようになっていきます。造形的な見方・考え方を働かせることで、生徒の資質・能力の育成につながっていくと考えられます。

(2) 実態調査

中学校第2学年の生徒 34 名を対象に、日本美術への関心や作品の見方についての実態調査を行いました（実施日：平成 29 年 7 月 14 日）。資料 1 は、その結果を表しています。



資料 1 日本美術への関心や作品の見方についての実態調査結果

(3) 本研究における考え方や取り入れる具体的な手立て

VTSの考え方と実態調査の結果から、立体的イメージを持たせ、比較鑑賞活動を取り入れ、感じたことを対話活動で交流させることで、生徒の日本美術への見方や感じ方が深まると考え、具体的には、

次のア、イのような手立てを取り入れました。

ア VTSの考え方を基にした対話活動

(ア) VTSの活用方法

3つの発問を通して生徒が感じたことを明らかにしていきます。作品の説明をし過ぎないことが大切です。また、生徒の意見に対し、表情やうなずきで肯定しつつ、そう感じた根拠を探させることが重要だと考えます。提示する作品は生徒の発達の段階に応じて選ぶ必要があります。

(イ) VTSの理論と対話活動を取り入れた鑑賞

3つの発問から、生徒が自分の考え方を持つことができるような鑑賞を目指して、生徒同士が対話をする中で、お互いの考えを共有し、批評し合うことができますようにします(以下の①②③)。

- ① 美術作品から、どのように感じたのか、「なぜそう思うのか」を自分自身に問い掛けるようにする。
- ② 生徒同士で対話を行い、感じ方の根拠を考え、批評し合う。
- ③ 美術作品に再び向き合うことで、感じ方を深める。

*①～③の中で、教師は美術作品の知識、歴史的価値については触れない。

対話活動を取り入れた鑑賞の授業では、生徒が美術作品からどのように感じ、どの部分を見てそう感じたのかを明らかにしていきます。さらに、経験、知識、〔共通事項〕と結び付けて、自分の思いや考えを伝え合うことで、自分の思いや考えの根拠が分かり、鑑賞活動が深まると考えます。

イ 比較鑑賞活動

岐阜大学教育学部の野村幸弘は、著書「鑑賞教育に力を入れよう！」において、作品を比較して鑑賞する効果を以下のように述べています⁽⁵⁾。

「作品を比較することは、かならずしも両者に出来不出来、良し悪し、優劣をつけるためではない。むしろだいじなのは、二つの作品それぞれの良さや特徴を際立たせることにある。……そのプロセスをていねいに見ていくことが、次の鑑賞の授業へとつながっていくのだと思う。」

本研究では、作品のよさや特徴を際立たせるために、二つの日本美術作品を比較させたり、1つの作品を平面な見方と立体的な見方で比較させたりしました。比較鑑賞する作品は、文化やイメージで時代を捉えやすくするために、同時代か近い時代の作品を考えました。狩野派の作品を調べる中で、長谷川等伯の作品が同時代の作品にも関わらず、共通する部分が少なく、比較させる上でもはっきりと違いが見えることが分かりましたので、「檜図屏風」と「松林図屏風」を比較鑑賞する作品として選びました。また、最初は平面的な見方で鑑賞させ、その後立体的な見方で鑑賞を行い、その違いについて考えさせました。それぞれの作者のことについては触れずに、それぞれの作品を比較鑑賞し、作品の表現のよさに気付くことをねらって授業実践を行いました。

(4) 授業実践 (題材名「屏風絵の世界～2つの作品を比較してみよう～」)

ア 題材の評価規準(2時間の題材であるので、そのまま学習に即した評価規準として位置付ける)

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
① 屏風絵の形、色彩や用途などの特徴や印象、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。	① 日本の伝統的な美術作品である屏風絵の形、色彩や用途などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取り、自分の価値意識を持って味わっている。
② 日本の伝統的な美術作品である屏風絵の特徴や表現方法について関心を持ち、主体的に日本の美術や伝統と文化などを理解しようとしている。	② 2つの作品を比較しながら、屏風絵の特質を捉え、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わい、理解している。

イ 題材の指導計画と評価規準（全 2 時間）

過程	学習活動	教師の指導・支援	学習活動に即した評価規準【評価方法】
1 時目 （日本美術との出会い）	<p>1 日本の伝統的な美術作品と出会う。</p> <p>2 鑑賞資料の折り曲げを行い、平面の時との違いを体験する。</p> <p>3 「檜図屏風」の部分図から、何が描かれているかを読み取る。</p>	<p>○日本の伝統的な美術作品について、その特徴や美しさを感じ取らせるために、「唐獅子図屏風」を平面の作品として取り上げる。</p> <p>○鑑賞資料を使い、屏風絵本来の折り曲げ方を体験させ、平面の時との違いを比べることができるようにする。</p> <p>○実際の大きさを感じ取らせるために「檜図屏風」の拡大図を用意する。</p>	<p>関① 屏風絵の形、色彩や用途などの特徴や印象、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。</p> <p>【活動の様子、発言内容】</p> <p>鑑① 屏風絵の特質を捉え、形、色彩などの特徴や印象などから全体の感じから、本質的なよさや美しさ、を感じ取り、自分の価値意識を持って味わっている。 （第 1 時、第 2 時を通して評価する。）</p>
2 時目 （本時）	<p>1 「檜図屏風」と「松林図屏風」を比較し、形や色彩について違いを鑑賞する。</p> <p>2 グループで対話活動をし、感じたことについて根拠を発表する。</p> <p>3 どのような時代に描かれた作品であるかを全体の印象から考える。</p>	<p>○「檜図屏風」と「松林図屏風」を比較して、形や色彩について理解させるために、電子黒板に作品を提示して確認する。</p> <p>○対話活動では、根拠を明確にし、的確に理解し、広い視点から感じ取らせるために、自分の言葉で表現するように促す。</p> <p>○「松林図屏風」の表現の工夫についての見方や感じ方を深めさせるために、生徒が感じたことの根拠を求める発問をする。</p> <p>○日本美術の歴史的・概括的な捉え方をさせ、作品の全体の印象から考えることができるようにする。</p> <p>○日本美術の歴史的・概括的な捉え方から鑑賞の深まりを感じさせる。</p>	<p>鑑② 2 つの作品を比較しながら、屏風絵の特質を捉え、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わい理解している。</p> <p>【活動の様子、発言内容・ワークシート】</p> <p>関② 日本の伝統的な美術作品である屏風絵の特徴や表現方法について関心を持ち、主体的に日本の美術や伝統と文化などを理解しようとしている。</p> <p>【活動の様子、発言内容・ワークシート】</p>

ウ 表 1 は題材において行った主な発問の一覧です。(エ)～(カ)の発問は、VTSの考え方を基にした発問です。




VTSの考え方を基にした発問をする前に、3つの発問(ア)～(ウ)を加えました。そのことによって、生徒が鑑賞活動で感じたことを他者との対話を通して交流し、多様な造形的な視点があることを知るきっかけづくりができます。1時目(日本美術との出会い)に行いました。


表 1 題材において行った主な発問の一覧

<p>(ア) この作品には、何が描かれていますか</p> <p>(イ) この作品は、何時頃を描いていますか</p> <p>(ウ) この作品は、どのくらい大きいですか</p> <p>(エ) どのようなことが起きていますか</p> <p>(オ) なぜそう考えましたか</p> <p>(カ) 新しい発見はありますか</p>	<p>} VTSの考え方を 基にした発問</p>
--	------------------------------



エ 本時（2 / 2 時目）の展開 ※作品A「檜図屏風」(狩野永徳) 作品B「松林図屏風」(長谷川等伯)

過程	学習活動（生徒の発言… □）	教師の指導・支援（○）（VTSの考えを基にした発問… □）	評価 規準
導入 （作品との 出会い）	<p>全体</p> <p>1 前時の屏風絵の見方を振り返り、日本の美術について学級の感想を知る。</p> <p>2 作品Bを見て、本時の内容に関連して教師とやり取りを行い、めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">めあて 「作品から感じたことを、自分の言葉で表現しよう。」</div>	<p>○生徒が、作品の色や大きさを実感することができるように、電子黒板で提示した。</p> <p>○生徒が作品Bから感じたことを聞き出しながら、本時のめあてにつなげた。</p>	
展開 （見比べる）	<p>個</p> <p>3 作品Bと作品Aを比較し、形や色彩から気付いたことについて比較し、第一印象を書き留める。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ Aは豪華、Bは地味。 ・ Aは力強い。Bはやせて細い。 ・ Aは線が太く、力強い。 ・ Bは線が細く弱々しい。 </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>屏風絵はこんな風に見えるんだ。</p> <p>本物!?</p> </div> <p>4 自分が感じたことの根拠を絵の中から考え、ワークシートに記入する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 力強い檜、金箔から、豪華だと感じた。 ・ やせて細い松や墨の色から、地味だと感じた。 </div>	<p>○作品Bを作品Aと比較させ、気付いたことや疑問を持つことができるように、形や色彩に注目させるようにした。</p> <p>○2つの作品に描かれている木の違いが分かるように、電子黒板で拡大して表示した。</p> <p>○見方や感じ方の大切さを理解することができるように、季節や時間の捉え方には個人差があることを助言した。</p> <p>○作品Bが描かれている場面を考えることができるように、発問①を行った。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>発問①「この作品Bの中でどのようなことが起きていますか」</p> </div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ Bは風が吹いているみたい。動いているみたい。 ・ Bは霧がかかっている。朝、早いみたい。 </div>	<p>鑑① （前時から引き続き評価）</p>
	<p>5 なぜ、そう見えるのか、なぜそう感じるのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 屏風絵本来の折り曲げ方を体験し、平面の時との違いを見比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 描かれている物の形や描かれている物の色彩に注目させるようにした。 ・ 霧や空間から考えさせるようにした。（根拠を考えながら作品を見る） ・ 立体的なイメージを持つことができるように作品を折り曲げて鑑賞する。 	

展開 (根拠を考える)	G	<p>6 グループで話し合う。(対話活動)</p> <p>リーダーが中心になって、作品Bについて、それぞれの意見を交換する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; border-radius: 10px;">どこに? あ!ここだ!</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; border-radius: 10px;">山が見えるよ!</div> </div> 	発問②「なぜ、そう考えましたか」	関②
	全体	<p>7 グループの意見をリーダーが発表する。</p> <p>8 グループの話合いから、新しい考えがないか振り返る。</p>	発問③「新しい発見はありませんか」	
まとめ (振り返る)	個	<p>9 本時の振り返りをワークシートに記入する。</p> <p>10 自分の感じ方がどのように変わったのかを振り返って書く。</p>	鑑②	

(5) 授業実践における手立ての有効性についての考察

ア 生徒のワークシートの記述の変容から

授業実践における手立ての有効性を見取るために、生徒のワークシートの記述を分析しました。表3は、表2を基に評価した結果を示したものです。

表2 ワークシートの記述の判断基準

	判断する目安	記述例
A	形や色彩などの性質を感じ取り、感情の記述をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ シンプルの中に奥行きがあり、引き込まれる。 ・ 静かな音のない寂しい風景。
B	形や色彩などからの性質のみを記述している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木が細い。・ 色が無い。

表3 ワークシートの記述の変容

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
第一印象	色	色	霧	欠	色	色	木	地味	色	木	シンプル	色	木	色	シンプル	色	色	霧
評価	B	B	B		B	B	B	A	B	B	A							
まとめ	霧	中国の木	霧がかかる朝の風景	欠	霧雨が降る森	霧の中の山	霧の中の木	早朝	朝の霧	雨が降った後の風景	中国の木	朝早くの山	雨上がりの木	山の中	木	霧の中の木	豪雨翌日の早朝	霧がかかった木
よさに気付く(感想)		○		欠				○		○	○					○		○
評価	B	A	B		B	B	B	A	B	A	A	B	B	B	B	A	B	A

抽出生徒 A

	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第一印象	色	木	霧	色	霧	色	色	霧	色	木	寂しい	色	霧	欠	木	木	木
評価	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B		B	B	B
まとめ	霧の中の木	山の中の朝	山の朝の風景	霧がかかった朝の山	きりのかかった朝	霧が降る朝	林	霧の中にある木	小さな林	霧の中の	中国の木	霧のかかった木	霧に包まれた山	欠	山に消える木	山の奥の木	朝の霧
よさに気付く(感想)		○	○								○			欠	○	○	
評価	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B		A	A	B

抽出生徒 B

第一印象の段階では、形や色彩からの性質を感じ取り、感情の記述をしている生徒（評価A）は12%（4人）でした。対話活動を通して自分の見方や感じ方の根拠を考えた後では、32%（11人）の生徒が作品のよさに気づき、感情の記述が見られました。12%の生徒（評価A）は、2つの作品を比較し電子黒板等で細部を掲示する手立てで、形や色彩などの性質を感じ取り感情豊かな第一印象を持ちました。つまり、一部の生徒にとっては、2つの作品を比較したことで、それらの作品の違いを明確に感じ取ることができており、それぞれの作品のよさを見て考えるための有効な手立てだったことが分かります。また、対話活動を取り入れた後に（評価A）の生徒が32%（11人）へと増えていることから、作品Bを作品Aと比較させ、気づきや疑問を持つことができるように、[共通事項]に着目させるようにしたことで、生徒は形や色彩に着目して作品を見ており、グループ内の対話活動でのやり取りやワークシートの記述から[共通事項]が活かされていたことが分かりました。2つの作品を比較鑑賞するために[共通事項]の視点が、作品のよさを分かりやすく際立たせることに効果的だったと考えます。

イ 抽出生徒の気づきや考えの変容から

(ア) グループ内の対話活動から

対話活動は、4人グループで行いました。リーダーが「なぜ、そう考えましたか」と問い掛けながら、対話活動を進めていきました。その中の一つのグループを抽出し、生徒A、生徒Bに注目しました。資料2は、このグループ内の発言の記録です。

※ なぜ ⇒ グループ内の他の生徒からの問い掛けに対する返答を示しています。

○生徒C：霧が掛かっているように感じた。



なぜ ⇒ 白い何もないところから。

なぜ ⇒ 白い所に木があるのに、見えなくなっているように感じたから。

○生徒D：遠くと近くがはっきりしている。



なぜ ⇒ 遠くの木がぼんやり描いてあるから。 なぜ ⇒ 雲が掛かってきている。

なぜ ⇒ 雨がたくさん降って木の枝が垂れ下がっている。

なぜ ⇒ 悲しい気持ちになった。水墨画（中国）みたいな絵みたいだ。

○生徒B：木が一本だけ傾いている。寂しい。



なぜ ⇒ 遠くと近くの木がはっきり分かる。

なぜ ⇒ 雪山の木のように見える

なぜ ⇒ 折り目を付けたときに奥行きがだんだんと増す。

なぜ ⇒ 傾いた木が山の奥に導いているようだ。

なぜ ⇒ Dさんのように悲しい気持ちになる。細い葉の一枚一枚が、雪が降っているように見える。

○生徒A：霧の中みたい。



なぜ ⇒ 雨が降っている（うすく白く見えるから）。

なぜ ⇒ 中国っぽい（木々が細いから）。

なぜ ⇒ 水墨画みたいな絵。静かな感じがして、落ち着く。

資料 2 グループ内の発言の記録

生徒Aは第一印象で「シンプルの中に奥行きを感じる、引き込まれる」という印象を持ちました。グループでの対話活動の中で「霧の中みたい」という考えを持ちました。「なぜそう考えましたか」と問われ、「雨が降っているときみたいだったから」、「中国っぽいから」と考え、最後には、「水墨画みたいな絵。静かな感じがして落ち着く」と記述しています。これは、造形的な見方・考え方を基に、V T S の考え方で見方や感じ方の根拠を明らかにしている姿だと考えられます。

一方、生徒Bは、木に注目し「雪山の中」という考えを持ち、グループの中で、「なぜそう考えましたか」と問われ、折り目を付けて屏風絵を見ていると奥行きを感じることに気づき、(前頁資料 2 波線部)、さらに、「雪山で生きようとする木が、そこに描いてある」と主張しています。これは、造形的な見方・考え方を基に、V T S の考え方で見方や感じ方の根拠を明らかにしている姿だと考えられます。

(イ) ワークシートの記述から

授業のまとめの段階で、作品Bのタイトルを考える活動を取り入れました。タイトルを考えられるという活動は、見方や感じ方を端的に表現する上で有効な手立てだと考えます。生徒Aは「中国の木」というタイトルを付けています。それは、細い木々が墨の濃淡で描かれているからそのように考えています。「水墨画みたいな絵」という対話活動における生徒Dの発言から影響を受け、霧に包まれているイメージを深めたのではないのかと考えます。生徒には、水墨画が中国の作品であるというイメージが強いことが分かります。

生徒Bは「山に消える木」というタイトルを付けています。「雪」という記述は表記されていませんが、最初に感じたことがそのタイトルには込められています(授業後本人に確認)。雪の吹雪く様子と木々の葉の描写のタッチがそのように見えたようです。

以上のことから、折り目を付けて作品を見るという手立てが立体的に作品を捉え、また、V T S の考え方を基にした対話活動の手立てによって、生徒が作品から考えたことや感じたことの根拠が見方や感じ方を深めることに効果がありました。

以上のア、イから、本研究で取り入れた立体的なイメージを持たせ、比較鑑賞活動を通して見方や感じ方の根拠についてV T S の考え方を基に対話活動を行わせたことは、生徒に伝統的な屏風絵や障壁画のよさや美しさを感じ取らせることに効果があったことが分かりました。

(6) 実態調査の結果を基にした手立ての有効性についての考察

事前調査で日本の伝統的な美術作品に「大変興味がある」、「興味がある」と答えた生徒は合わせて12%(4人)でした。この結果を踏まえて、本研究では、題材の中に、V T S の考え方を基にした対話活動を取り入れることとしました。その結果、全ての生徒が形や色彩などから得られる性質を記述でき、その中の32%(11人)の生徒は、「シンプルの中に奥行きあり、引き込まれる」「静かな音のない寂しい風景」(下線部は研究者による)など、作品から受ける自分自身の感情についても記述することができていました。このことから、生徒は作品に対する興味を高めて鑑賞することができ、日本の伝統的な作品のよさについて気付くことができるようになったと考えます。

V T S の考え方を基にした対話活動を取り入れたことによって、それぞれの生徒が作品の見方や感じ方についてグループ内で問い掛けを行うようになり、自分の見方や感じ方の根拠を明らかにすることに

つながっていきました。また、生徒が、自分の見方や感じ方の根拠を発言できる場を設定したことで、

日本の伝統的な美術作品に対する生徒の興味・関心を高めることにつながりました。さらに、伝統的な屏風絵や障壁画の空間の表現を理解し、[共通事項]の視点で作品のよさや美しさを捉え、主体的に鑑賞できる生徒の育成を目指すものになりました。以上のことから、美術科の鑑賞の授業において、V T S の考え方を基にした対話活動を取り入れることは、有効であったと考えます。

《引用文献》

- (1)(2) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説美術編』 平成 29 年 9 月 第 1 章、第 2 章
第 1 節
- (3) 文部科学省 『中学校学習指導要領』 平成 29 年 3 月 第 6 節
- (4) フィリップ・ヤノウィン 『どこからそう思う？学力を伸ばす美術鑑賞ビジュアル・シンキング・
ストラテジーズ』 平成 27 年 淡交社
- (5) 野村 幸弘 「鑑賞養育に力を入れよう！」 『岐阜大学教育学部教師教育研究』 第 5
号 2009 年
http://www.ed.gifu-u.ac.jp/info/kyosi/pdf/5_11.pdf